



なかむら けんたろう
中村 健太郎
国民民主党田原市議団



今後の田原市消防団ポンプ操法大会の在り方は

操法大会を廃止し、負担軽減に配慮した訓練の在り方に見直す

消防団の在り方について

問 大規模災害時には人手不足が懸念され、災害現場で活動する団員数を確保することが必要だと考えるが、基本団員及び機能別消防団員の確保策について市の考えは。

答 処遇改善や行事の見直し、出初式・観閲式の式典を集約し負担軽減を図るとともに、ケーブルテレビなどを活用し、消防団のイメージアップを図り募集を行っている。市民の皆様へ地域の安心・安全を守る消防団の活躍をアピールし、消防団員の確保、持続可能な消防団活動の推進を図っていく。

問 愛知県操法大会に出場しないとしたが、今後の田原市消防団ポンプ操法大会の在り方について、どのように考えているのか。

答 消防操法大会に関する検討会では、消防団員や家族の負担軽減、若い世代の価値観にあった入団しやすい環境づくりが必要との見解が消防団から示されたため、愛知県操法大会への出場辞退と市消防団ポンプ操法大会の廃止を取り決めた。操法訓練はさまざまな訓練の選択肢の一つとして位置づ

け、消防団員の負担軽減に配慮した訓練の在り方に見直す。

問 競技化した訓練の廃止も検討すると伺っているが、消防団員の技能の維持などが懸念される。今後の消防団技術の伝承や消防団活動訓練は。

答 消防団が持つ技術の伝承には、活動訓練の方針を策定し、訓練の標準化、技能取得の充実化を図っていく。訓練方針は、消防団の意見を反映した訓練項目を取り入れるなど、基本的な訓練をはじめ、火災対応や地域特性に応じた災害訓練など、各分団が必要とする訓練項目を選択し、消防団が主体的に取り組めるものとする。



問 来年以降の大会について、現時点での市の考えは。

答 主催者から今年と同時期で開催したいと打診されており、継続的かつ発展的に開催されることを望んでいる。ただし、多くの市民が大会の効果を実感できる環境整備や迂回路の設定など、地域の交通事情等への配慮が不可欠であると考えている。

問 同時期での開催となればスケジュールもタイトになってきている。1年先延ばしにして準備を進める検討はされないのか。

答 連続して開催することで、より多くの選手の確保につながるかと伺っている。

問 主催者に住民説明会などを設けるよう働きかける考えがあるのか。

答 主催者には、説明会などを開催するよう働きかけていく。市も協力し、丁寧に説明をしていきたい。